

「持続可能な水・土・里」シンポジウム in 隠岐の島町報告

11月18日に隠岐郡隠岐の島町五箇生涯学習センターにおいて、農業用水水源地域保全対策事業の普及啓発活動の一環として「持続可能な水・土・里」シンポジウム in 隠岐の島町を開催しました。当日は県内から約200名の方がご参加くださいました。

平日のお忙しい中ご参加いただきました皆様、ご協力いただきました皆様ありがとうございました。ここにシンポジウム内容を報告いたします。



| | |
|-----|---|
| 名 称 | 「持続可能な水・土・里」シンポジウム in 隠岐の島町 |
| 日 時 | 平成22年11月18日 13:30~17:00 |
| 場 所 | 隠岐の島町立「五箇生涯学習センター」 大ホール |
| 主 催 | 島根県土地改良事業団体連合会 |
| 協 力 | 土地改良事業団体隠岐協議会、隠岐の島町、 島根県農地・水・環境保全協議会 |

シンポジウムの目的

近年、異常気象や森林の荒廃などで、農業生産に欠くことができない農業用水を安定的に確保することが困難となってきています。そのため平成20年度より農業用水水源地域保全対策事業を活用し、隠岐地域を中心に県内の森林ならびに水資源、土壌環境の状況を把握するための調査を島根大学と行ってきております。シンポジウムでは、その調査研究成果の発表および地域の「里地・里山・里海」に関する話題提供やパネルディスカッションをおこないました。シンポジウムでは、それらを通じて、「里地・里山・里海」といった循環する自然環境や、命を育む里・山・海をより良い状態で後世に継承することの重要性について広く知っていただき、一般県民も一体となって保全活動である「手入れ」を行う気運を高めることを目的としました。

シンポジウムの内容

■ビデオ放映 「水をはぐくむ里地・里山」

島根県内の里地・里山の映像から、「水をはぐくむ里地・里山」の役割や管理の必要性に気付いていただくことを目的とした啓発ビデオを放映しました。

「里地、里山は人との関わりが深いものであり、昔ながらの人と里地、里山との関係は、循環型社会の手本ともなるものです。よく整備された里地、里山には保水機能があり、水の安定供給や、洪水防止、土砂流出防止等の環境保全機能が備わっています。また、里山は食料生産の場であり、里地は祭りなどを通して歴史、伝統を伝える場ともなっています。

しかし現在、昔ながらの人と里地、里山との関係は薄れ、里地、里山は荒廃してきています。今こそ里地、里山との関係を見直す新しい動きを興す時です。里地、里山を保全し、その大切さを伝える活動が必要です。今一度その大切さにみんなが気づかねばなりません。」

■研究発表 「健全な水源林の管理について」－隠岐島後地域の森林調査から－

スギ人工林の現地調査から間伐を考える

高橋 絵里奈氏 島根大学生物資源科学部・助教

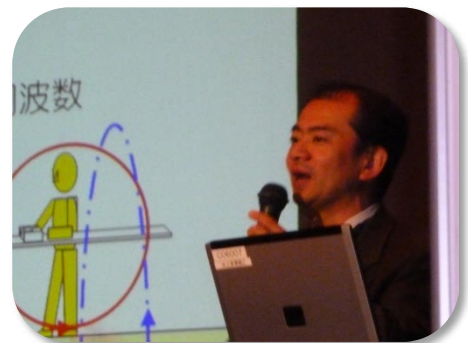
スギ人工林の疎密度と伐根などの年輪の成長量調査の結果から、1. 伐採前に林木が超過密であった調査地では、近年間伐が行われた後でも、依然として林木が過密であったケースがあったこと、2. 林木が過密な林分では、追加の間伐が必要であること、3. 森林の水源涵養機能を高めるための間伐の適期や、伐採木を選ぶ判断基準が必要であることが報告されました。



土壌環境の調査から見る水源涵養林の健全性

森 也寸志氏 島根大学生物資源科学部・准教授

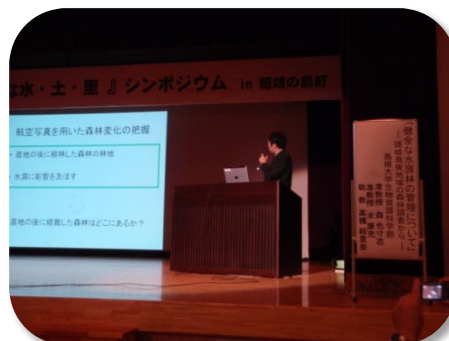
電磁探査により、土壌環境を調べると、間伐が遅れ、かつ農地跡の森林は表層土壌の養分が高めであり、雨で養分が流れやすいことが報告されました。そのため、まずは、農地であった場所から間伐を行って下草を繁茂させることにより、土壌を健全な状態にすることから始めることが、広大な森林管理を行う方法として効率的ではないかと報告されました。



航空写真を用いた森林変化の把握

米 康充氏 島根大学生物資源科学部・准教授

1965年と2005年撮影の航空写真比較により森林資源の変化量を調査し、更に森林計画図と重ねることにより、農地跡の森林を効率的に探す方法を開発したことが報告されました。このような手法で探索した農地跡の森林から積極的に間伐することが、より良い水源確保になること、まずは、自分の所有する森林の現状を調べてみませんかという呼びかけ等がなされ、研究発表全体のまとめと間伐の対策について報告されました。



■話題提供

「隠岐における森林管理について」

田中 一隆氏 隠岐島後森林組合・参事

山林経営と自然との共存の観点から間伐や枝打ちの方法、隠岐の島町の山林の現状と森林組合の間伐についてお話をいただきました。

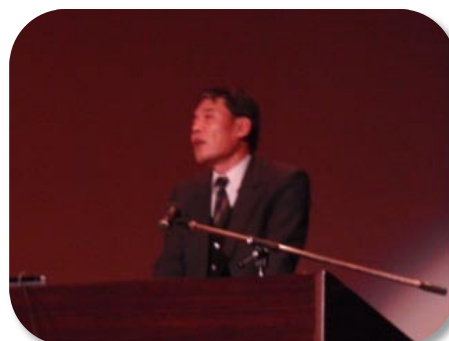


「豊かな森が育む水産資源」－隠岐島後沿岸域の磯焼け調査から－

池田 速人氏 島根県立隠岐水産高等学校・教諭

沿岸漁業者の高齢化と減少、温暖化や開発によって、人の手が入らなくなった「里海」の現状について、隠岐島後沿岸域の磯焼け調査をもとにお話をいただきました。

また、磯焼け対策による里海と里山の再生への取り組みについてお話をいただきました。



「治山治世」

松田 和久氏 隠岐郡隠岐の島町・町長

山林や田畑が管理されているということが災害のない安全、安心な町づくりにつながるというお話をいただきました。



■パネルディスカッション

コーディネーター

佐藤 利夫氏 島根大学生物資源科学部・教授

パネリスト

松田 和久氏 隠岐郡隠岐の島町・町長

田中 一隆氏 隠岐島後森林組合・参事

池田 速人氏 島根県立隠岐水産高等学校・教諭

森 也寸志氏 島根大学生物資源科学部・准教授

米 康充氏 島根大学生物資源科学部・准教授

高橋 絵里奈氏 島根大学生物資源科学部・助教



コーディネーターに島根大学の佐藤教授をお迎えし、パネリストには研究発表された島根大学の先生方と話題提供の方々に参加していただき、隠岐の森林管理について意見交換を行っていただきました。その内容を要約して掲載いたします。

隠岐の島町の森林の現状と管理について

島根大学の先生方から水源涵養林と防災機能を果たす上で「隠岐の島町では過密林が多く、早く間伐を行う必要がある。」「間伐をしている所でもまだ過密な所は、更なる間伐を考えて行う必要がある。」「予算も人手も限られているので、間伐を効率的に行うには農地由来の場所を優先的に行ってはどうか。」という提言がなされました。

また同じく島根大学米准教授より水産資源の涵養の観点から「川の水が媒体になって海に鉄などの養分を運んでいるので、川に流れ込む水を形成している山林の現状を調査して、流域を一体として管理し資源の涵養を図るのも一つの方法である。」という提言もありました。

水源涵養林と防災機能を発揮する事と経済的な生産林のための間伐は符合するところがあるか？

隠岐の島町松田町長より、「隠岐の島町は今後 150 年～200 年伐期を想定した間伐を行っていく必要があるが、4、5 年おきぐらいに状況を見ながら間伐をし、生産林としても成り立っていけるようにしながら、災害に強く水源涵養にもつながる林業経営を考えていけばよいのではないか。」という提言がありました。また、島根大学高橋助教より、「奈良県吉野林業地には 250 年のスギ人工林があり、人の背丈を超えるような下層植生が維持できていて、経済活動としての木材生産と水源涵養機能を両立させた林業経営が実践されている。まずは、山から出てくる木材をどうやって使っていくかということを住民のみなさんに興味を持ってもらって木材の利用方法を考えていけば、山林を守りながら木材生産も行い水源涵養の機能も達成できるのではないか。」という意見が出されました。

話題提供者の方が考える隠岐の森づくりとは

隠岐の島町松田町長より、「災害が繰り返され田畑が減少してきているように思えるので農地の
上流部に隣接する森林から間伐をして、出来るだけ災害に強い山に仕立てていくことが農地を守
ることになると思う。」隠岐島後森林組合田中参事より、「今ある人工林を経済的に成り立たせな
がら、間伐により徐々に木の間隔を開けてゆき、長伐期の山にもっていくという方向が理想であ
る。」隠岐水産高校池田教諭より「海をよみがえらせる方法には長期的にみると植栽をして、森林
を発達させる方法がある。広葉樹があると根を張り、地下水も豊かになる。さらには手間がかか
るかもしれないが針葉樹と広葉樹を混植して、より天然林に近い樹種構成にすればより効果的
ではないかと思う。」などの想いをうかがいました。

森林資源の動向と供給の点に関して長期的に見て将来どうなるか？

島根大学高橋助教より、「拡大造林期に植栽された森林については柱材の生産を目的に育成して
きたものである。しかし現在は柱の需要が減少している。最近は国産のスギやヒノキを使って集
成材を作る動きがあり、集成材になるような木が売れている。集成材になる木はある程度の大き
さがあれば年輪の分布等は問題にされないので、どんどん太い木を生産して集成材用に出すとい
うのも一つの動きになっていくかと思う。ただそういったことを目指すと柱材の生産を目指して
いたよりも、もっと本数を少なくして、一本一本の木を太くするような管理をしなくてはならな
いので、もっと思い切った間伐が必要になってくる。」という意見が出されました。また、島根大
学森准教授より、「CO₂（二酸化炭素）について日本は25%削減するということを公表したが、
CO₂を削減する余地が無い都会の会社が他県の人工林の木を購入して（木はCO₂を吸収する為）
CO₂削減の努力目標を達成したかたちにする。木を売った県はその収益で人工林を維持管理する
というビジネスモデルが成り立ち始めている。」という意見が出されました。

会場からの質問とまとめ

会場から「水温の上昇と磯焼けの関係について」「隠岐の島町の木質バイオマスの現状について」
などの質問を頂いたほか、間伐の為の作業道を緑化してほしいなどの要望も頂き、会場の皆様の
意識の高さが伝わってきました。

最後に島根大学佐藤教授に「森林にはいろいろな機能があります。農林水産業に対する水
の供給、水産業に係わる資源の涵養等いろいろありますが、隠岐の森を隠岐の方々がどう使
うかというのは、皆さんの共通認識で決まるものです。今日を機会に一丸となって考えてい
ただけのが一番よいと思います。」とまとめいただき、熱い熱気冷めやらぬ中、終了いた
しました。